

報告

2018年度 関西支部大会報告

実行委員長
服部 圭子^A



2019年2月9日(土)、近畿大学東大阪キャンパスにおいて、「留学・国際交流活動を通じた発展的学び—プログラム構築と学修の継続性—」という大会テーマのもと、グローバル人材育成教育学会第5回関西支部大会が開催されました。近年、多くの学びを喚起する留学プログラムや国際交流活動がたくさんある中、帰国後やプログラムへの参加後、学生たちがどのように学びを継続し、活動を広げてキャリアパスに繋げていくのか、またその受け皿となり学びを発展させるプログラム構築が大学をはじめとする教育機関の課題ではないかという問題意識から、支部大会のテーマが設定されました。

当日は、基調講演、シンポジウム、パネルセッション、招待講演・報告、模擬授業デモンストレーション、一般発表、ポスター発表などを通して、グローバル人材育成教育の在り方やプログラム構築について議論さ

れました。また、賛助会員および参加企業の皆さんの展示・発表によるご協力もありました。まだ非常に寒い日でしたが、77名の方に参加いただき、会場内は熱気に溢れていました。近畿大学アカデミックシアター内のラウンジで行われた情報交換会には51名の参加者があり、近大マグロも食しながら議論を深めました。

大会前の午前中には、異文化対応力育成研究専門部会の研究会が開催されました。午後からの大会は、実行委員長からのご挨拶で始まりました。まず藤原尚先生(近畿大学副学長・グローバル推進検討委員会委員長)から、開催校ご挨拶に引き続き「近畿大学におけるグローバル人材育成教育」というテーマで基調講演をしていただきました。近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」を基に、「近畿大学国際化のビジョン」を設定して、地域発展と国際社会に貢献ができる人材育成のためのさまざまな取り組みが行われていることが紹介されました。2つめの基調講演は、土井康裕先生(名古屋大学総長補佐・国際化推進

A: 近畿大学生物理工学部

担当)による「産学連携によるシンガポール国立大学ビジネススクールとの交流プログラム—交流プログラムの連続性と効果—」でした。国外の連携先との交渉や協力体制、産学連携のプログラムを運営する上での具体的な事例や課題を、わかりやすく楽しく紹介してくださいました。

次のシンポジウム「関西発グローバル人材育成教育の現状と課題」は、勝又美智雄学会長を座長として、3名の先生方にご登壇いただきました。藤田直也先生(近畿大学国際学部)には、近畿大学国際学部が目指すグローバル人材育成について、留学必修化を軸としたプログラムの視点からお話いただきました。岩崎裕保先生(関西 NGO 協議会監事、開発教育協会監事、帝塚山学院大学)には、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を行動原理とすることが「グローバル人材」に求められるのだという視座を提供いただきました。新田香織先生(特定非営利活動法人「アイユゴー(途上国の人とともに)理事」、近畿大学総合社会学部)は発展途上国支援活動に参加する学生に必要とされる事前準備やコミュニケーション力についてお話いただきました。

口頭発表のセッションでは、村井良野氏・樋口尊子氏(NPO 東大阪日本語教室 HONK)による地元の外国人への日本語教室の活動を通じた多文化理解についてのご報告と、白石よしえ先生(近畿大学全学共通教育機構)の模擬英語授業特別デモンストレーションの2件の招待発表を含む8種類11名によるご発表がありました。紙面の関係で全てをご紹介できないのが残念ですが、詳細は学会ホームページをご覧ください。

パネルセッションは、「地域・世界を繋ぐ発展的継続的学びの可能性」というテーマでした。まず、近畿大学が文部科学省で採択された「大学の世界展開力強化事業」に関連する「ロシア人交歓留学生の企業インターンシップ：日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成」を西藪和明先生(近畿大学理工学部)がご紹介くださいました。そして、米田尊行氏(株式会社松井製作所)、濱田恵氏(濱田プレス工藝株式会社)の2つの企業の方々が、国際インターンシップの具体的な受け入れ事例についてお話してくださいました。「図面は共通語であり、ことばは図面の中にある」というお言葉が印象的でした。2つめの「日本の武道プログラム」では、デイビッド・エックフォード先生(近畿大学語

学教育センター)が、交換留学生を対象とした日本の武道を学ぶプログラムについての展望を述べられました。武道は日本からの「輸出品」の1つであり現在2億の人々が武道に親しんでおられるということでした。また、コミュニケーションと文化は分離できないことを認識する大切さをご指摘くださいました。

ポスター発表7本のうち、5本は国際インターンシップ、海外研修プログラム、外国人支援活動に参加した学生たちによるものでした。これらの学生を含む学生・大学院生たちが学会の手伝いをしてくれましたが、学会手伝いを通して非常に刺激を受け、異なる視点に気づき、やる気が喚起されたことが、情報交換会時に述べてもらった感想からも窺えました。支部大会への参加が今後の各々の活動や学びの継続に繋がることを期待しています。

当初、学会長より、「近畿大学が目指すグローバル人材育成教育や各種プログラムを紹介してほしい。また地域性や関西らしさを出してほしい」というご要望を受けました。新しくなった近畿大学東大阪キャンパスでの開催がベストだと考えたものの、実行委員長である報告者の所属は和歌山キャンパスです。不安いっぱいでお引き受けしましたが、学長・副学長をはじめ、学会理事や関西支部長のご協力やご助言、協力をいただき、さらに、多学部に亘る多くの先生方、学内の各部署、学生さんたちの協力を得て、無事に終わることができました。

反省点もたくさんありますが、会長からは、「内容が盛りだくさんで充実しており、主会場もほほいっばいで盛況であったので、大成功だといえる」とのお言葉をいただき、ほっとしています。

本支部大会に参加くださった皆さまが、相互行為により色々な気づきを得て、今後の研究や活動の発展に繋げる切っ掛けを得ていただけたなら嬉しいなと思っております。

登壇をご快諾くださった発表者の皆さま、ご協力いただいた皆さまに、実行委員会を代表して心より感謝申し上げますとともに、ここにご報告いたします。

受付日 2019年3月7日、受理日 2019年3月16日